シマコブ）多糖の分析、茅原鉱同大教授の食育米（発芽玄米）に関する講演が行われた。

5日は延辺大学で平良琉球大学教授が「沖縄の長寿」で、笠原大吾同大教官が「大宜味村老人の健康調査」で、韓春姫延辺大学教授が「延辺と沖縄居住民の骨密度」で講演し、教授や学生に深い感銘と示唆を与えた。

安図県薬草基地では、5万平方メートルに良質な朝鮮人参が栽培され、国内は勿論、沖縄県からの視察が絶えないという。

長白山は6日に登った。吉林省と北朝鮮両江道の国境に聳える標高2、744メートルの休火山で、山頂の年平均気温はマイナス8度、平均風速が12メートル。朝鮮民族にとっては聖地でもある。

8日は、遼寧省大連市を訪ねた。「北方の香港」として650万人で活況を呈する港湾都市だ。日本企業が130社以上あり、大連の発展に寄与している。六十数年前は30万人の日本人が住んでいた。日中戦争後、大連港から兵隊や民間人を乗せた引揚船が京都府舞鶴港向け出港した。菊池章子が歌った「岸壁の母」は、それをモデルにして全国民の感涙を誘った。満鉄（南満州鉄道）は、1906（明治39）年設立、45（昭和20）年まで存在した日本の国策会社であった。県内に沖縄満州会があり活動している。

旧日本人街は、中山広場近くの南山と呼ばれる場所に復元された。戦前は、満鉄、関東軍の幹部たちも住んでいたという。整然と区画整理され、長く延びた並木道が美しかった。

600年前から中国と深い絆のある沖縄県からの交流団は、各大学、観光地で温かい歓迎を受けた。

長春中医薬大学の史料館で、漢方薬に使用された貴重な虎、鹿、熊などが展示物されていた

延吉市西市場は、那覇市の活気溢れる牧志公設市場を連想させた。市民の胃袋として、牛肉、魚介類、果物、野菜などが廉価で販売されていた

安図県薬草基地で高級朝鮮人参畑を視察する訪問団

延辺大学前で訪問団と同大関係者（前列右から許賢姫さん、韓教授、後列右から4人目が金政医学部長、5人目が崔炯謨・副学長、6人目が平良琉大教授、8人目笠原教官）

遼寧省大連港。アジア有数の港で、4つの埠頭をもつ不凍港で有名。中国最大の石油輸入港で隣に新港も造られた